

展覧会

吉川静子 私の島は何処

Shizuko Yoshikawa Where is my Island

吉川静子の経歴は、彼女が幸運であったという一方で、若い頃から彼女自身の決断によるところが大きく、類稀なる人物であることを表しています。

1934年、福岡県大牟田市に生まれた静子は、音楽や言語、自然に強く関心を惹かれた聡明な子どもでした。18歳で東京に移り、津田塾大学で英文学を学び、その後、現・筑波大学で建築と工業デザインを学びました。1960年、彼女は東京で開催された世界デザイン会議の通訳として働き、後に夫となるヨゼフ・ミュラー＝ブロックマン (Josef Müller-Brockmann) ら、ヨーロッパのモダニズムを牽引していた第一人者たちと実際に会いました。ミュラー＝ブロックマンはスイスのグラフィックデザインの先駆者であり、日本にも強い影響を与えています。1961年、彼女はヨーロッパに移り、ウルム造形大学 (1953～1968年) で、数少ない日本からの留学生のひとりとして、デザインを学びました。

1963年、彼女はチューリヒのヨゼフ・ミュラー＝ブロックマンのスタジオに参加し、彼らは1967年に結婚しました。彼女は夫の助けを得て、マックス・ビルヤリチャード・ポール・ローゼの作品を通して知られている、スイス構成主義や具体芸術 (コンクリート

アート) の精神をもつアーティストとしてのキャリアをスタートさせました。

ジャンルの枠組みの中での表現の模索へのこだわりは、幾何学的の合理的な原則を用いて、(日本人であることに根ざした) 詩的な純粹さと軽快さを繋ぐ作品を生み出しました。彼女の作品は日本とヨーロッパでの展覧会で大成功を収め、夫が亡くなった後は、彼女の作品は、より叙情的で豊かな色彩をもつようになりました。

約30年ぶりの日本での個展となるこの展覧会では、日本の観客に改めて吉川静子を紹介します。『私の島は何処』というタイトルは、作家の来歴を指していますが、芸術的観察が進化し得る形而上学的領域を絶え間なく探し続けるメタファーとして読むこともできます。

2016年、作家とその友人たちによって設立された「吉川静子ヨゼフ・ミュラー＝ブロックマン財団」は2人のアーティストの作品をを保管・普及し、その記憶を維持することを目指しています。吉川静子が日本に「帰国」し、作品集出版記念を兼ねたこの展覧会の開催は、始まりを告げるものです。また、財団は長い目で見たアートとデザインへの振興のため、才能ある若手アーティストへの助成も行います。

新しいテクノロジーの時代において、吉川静子の作品は、デジタル時代の形式と美学に関するディスコースと深い関連性を示しています。皆様に関心を持っていただき、広く議論が交わせることを願っています。ご支援をよろしくお願い申し上げます。

ラース・ミュラー

吉川静子ヨゼフ・ミュラー＝ブロックマン財団代表

展示概要

日時：2018年5月17日(木)～27日(日) 11:00-19:00

会場：アクシスギャラリー (東京都港区六本木 5-17-1 AXIS ビル 4F)

tel. 03-5575-8655 <http://www.axisinc.co.jp/>

<オープニングレセプション> 2018年5月17日(木) 18:00- ※作家本人が在廊します。

主催：吉川静子ヨゼフ・ミュラー＝ブロックマン財団

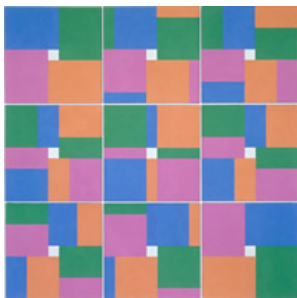
後援：スイス大使館

協力：アクシスギャラリー

略歴

- 1934 福岡県大牟田生まれ、幼年時代、神戸を経て福岡県柳川市伝習館高校卒
- 1952 - 56 津田塾大学英文科卒業
- 1958 - 61 東京教育大学（現・筑波大学）にて、建築・工業デザインを学ぶ
- 1959 - 60 世界デザイン会議事務局で働く
ウルム造形大学の当時の学長、トマス・マルドナード、オトル・アイヒャー、ハンス・ギュジュロ及び
チューリヒ工芸美術学校教授、ヨゼフ・ミュラー＝ブロックマンとの知己を得る
- 1961 - 63 ドイツ、ウルム造形大学留学、ビジュアルコミュニケーションを学ぶ
- 1963 - 67 ヨゼフ・ミュラー＝ブロックマンの助手として働く
- 1967 ヨゼフ・ミュラー＝ブロックマンと結婚する
- 1970 チューリヒ・コンクリート派の影響を受け芸術活動を始める
- 1974 以降 初めての個展以後、主としてヨーロッパにて個展及びグループ展多数
- 1992 スイス政府後援により、ヴィデオ・フィルム『吉川静子』（監督＝ペーターミュンガー）制作。
チューリヒ美術館に公開後、スイステレビ、3SAT テレビ（ヨーロッパ）にて、放映される。
- 2018 作品集『吉川 静子』出版（ラース・ミュラー社、チューリヒ）独語、英語、日本語
- 現在、チューリッヒ郊外に居住及び制作をしている

代表作品



t1 transformation der vier gleichgrossen farbflächen 1974



no.52 relief farbschatten ,75x75cm, 1978



m215 fs/4x4 von 4 farben zur polyphonie 1986



m433 kosmische gewebe - strahlend, 1997, sammlung: kunsthaus zürich



m688 my silk road 2005



m722 kosmische gewebe- überlagernd
-2 2006-07



m791 puls 2013



m829 wiederkehr 2013

『、、最初は他人の経験を通じて既に示されていた道を通って。が常にそれに新しい要素を加えてゆき独り立ちの職匠に達した。今日、静子はコンクリート芸術の発展のために独自の貢献をなしているのだ。彼女が最上のやり方でコンクリート芸術の中のチューリッヒ的な方向を自分の物として取り上げ特別に繊細微妙で優美な一面を加えた、と今日結論できることは確かにポジティブなことである。彼女は解放された日本の女性として素晴らしい完成度に於いて、日本の伝統と我々の時代の構成主義的思想とを結合することに成功したのである。』

マックス・ビル 1997年南画廊（東京）個展カタログより。